

研究課題名	内視鏡的胆管内自己拡張型金属ステント留置後の内視鏡的抜去試行例についての多施設共同後方視的症例集積研究
研究責任者名	広島大学病院 消化器・代謝内科 教授 茶山 一彰
研究期間	2017年9月19日 ~ 2018年6月
対象者	2012年1月1日から2016年12月31日までに、広島大学病院消化器・代謝内科に通院または入院歴があり自己拡張型金属ステント（SEMS）を留置した後、内視鏡的にSEMS抜去を試みた患者を対象とします。なお、疾患や病変部位などは特に限定しません。
意義・目的	内視鏡的（経乳頭的）に胆管内に留置した自己拡張型金属ステント（SEMS）の抜去を試みた症例に対して、SEMS抜去成功率やその成功の可否を狭窄部位別、留置状況別、SEMSの種類別、留置期間別、抜去に使用した各種処置具別に解析し、その有用性を後方視的に明らかにすることを目的としてこの研究が計画されました。
方法	本研究は、全て診療録（カルテ）情報を転記して行います。 カルテから転記する内容は①患者基本情報：年齢、性別、診断名②狭窄部位（肝門部領域胆管、遠位胆管、肝門部領域～遠位胆管（いわゆる、広範囲)), 留置状況（切除可能・切除不能・切除境界・不明、良性), 狭窄長, SEMSの種類；CSEMSあるいはUSEMS, その商品名, 径, 長), SEMS留置期間③留置理由④SEMS抜去成功の可否⑤SEMS抜去理由, 抜去に要した時間, 抜去に用いた各種処置具, 抜去による偶発症, 偶発症に対する追加処置, 抜去困難例に対するCSEMS留置後の抜去成功率, その他。です。（個人が特定出来る情報は転記しません）
共同研究機関	以下の機関と共同で研究します。 順天堂大学、手稲溪仁会病院、北海道大学病院、伊達赤十字病院、東北大学、仙台市医療センター、千葉大学医学部附属病院、亀田総合病院、がん研有明病院、東京大学、帝京大学附属溝口病院、聖マリアンナ医科大学、横浜市立大学市民総合医療センター、山梨大学、富山県立中央病院、JA長野厚生連 佐久医療センター、岐阜大学、岐阜市民病院、愛知県がんセンター中央病院、名古屋市立大学、三重大学、大阪医科大学、近畿大学、京都大学、神戸大学、北播磨総合医療センター、倉敷中央病院、島根大学 腫瘍センター、鳥取赤十字病院、久留米大学、熊本大学、熊本赤十字病院、鹿児島大学、関東中央病院、仙台厚生病院、福島県立医科大学、自治医科大学、埼玉医科大学総合医療センター、東京医科大学、東邦大学医療センター大森病院、東邦大学医療センター大橋病院、新潟県立がんセンター新潟病院、静岡県立静岡がんセンター、名古屋大学、北野病院、奈良県立医科大学、山口大学（宮崎大学に情報を集め解析します）
試料・情報の管理責任者	宮崎大学 教授 河上 洋
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形

で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5192

広島大学病院消化器・代謝内科 助教

石井康隆

クリニカルスタッフ

河村良太

研究機関：広島大学